

東部支部巡検会の報告：庵原層群巡検

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 工藤, 周一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025106

東部支部巡検会の報告

「庵原層群巡検」

工藤周一*

はじめに

2月18日(日)の、静岡県地学会東部支部の巡検会に参加したので、その様子を報告する(図1)。集合は、JR「しんかんばら」駅前の広場だった。ここで、案内者の山本玄珠会員から概略の説明を受け、車の台数を減らして出発した。総勢31名、快晴で富士山が良く見える巡検だった。

地点1 蒲原礫層と岩淵火山岩層との断層(蒲原町善福寺)

この断層は善福寺断層とよばれ、ほぼ南北に走る高角度の正断層である。断層の西側に蒲原礫層、東側に岩淵火山岩層がある。

崩積土の斜面を7mほど登ると正面が露頭となるが、これは蒲原礫層である。露頭と観察者との間に「断層粘土」があり、観察者の頭付近に「岩淵火山岩層」があったという位置関係である。

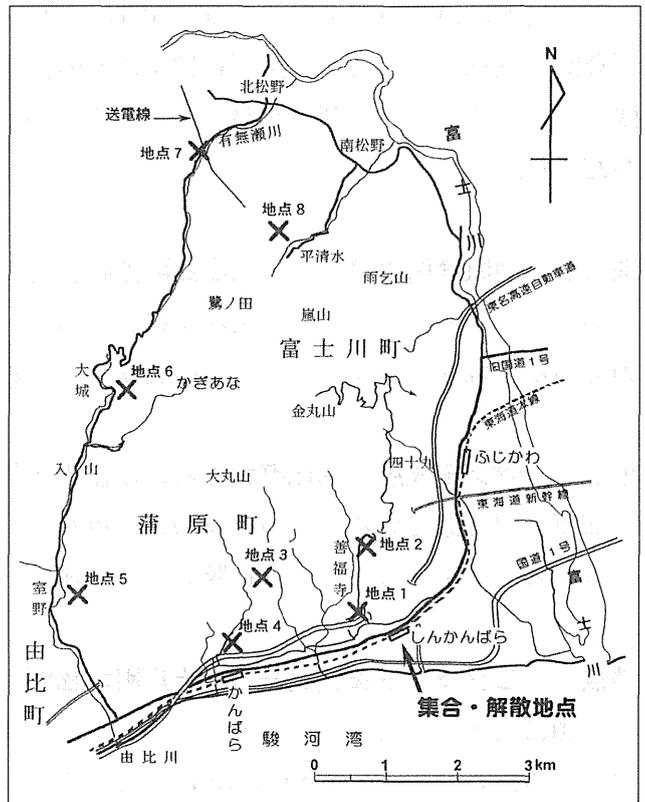


図1 見学地点案内図

地点2 岩淵火山岩層下部(蒲原町善福寺)

畑のへりの露頭で、ブロック化したガラス質安山岩を見た。露頭はやや古く、ほこりを被った感じで、迫力には欠けていた(写真1)。

このあと、金丸山、大丸山など、岩淵火山岩層最上部のデイサイトドームを見るべく、富士川町に入り、舗装された林道を走った。林道からの富士川、岳南平野、愛鷹山、富士山などの眺めは素晴らしかった。しかし、標高400m付近になると、日陰の林道に雪が残り、その雪にスリップした車に道を塞がれ、引き返すことになってしまった。

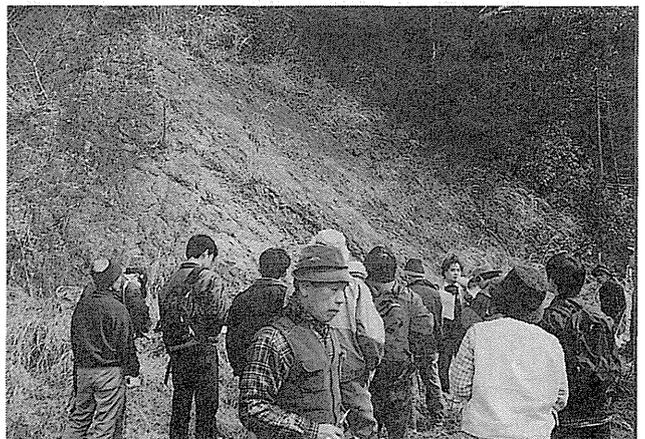


写真1 岩淵火山岩層下部(地点2)

*

地点3 蒲原礫層（蒲原町 中）

造成地の大きな露頭を見学した。蒲原礫層は、径3～6cmの円礫と大きな斜交層理が目立つものの、それ以上の特徴となると迷ってしまう。ここで、蒲原礫層を切る断層を見た。断層に沿って雨裂が走り、また、かつての「断層崖」を埋めた崩積土を見た。新しいとは思うが、「時代未詳の第四紀断層」というところだろう。

地点4 堰沢（せぎざわ）岩脈（蒲原町堰沢）

この岩脈は角閃石安山岩である。角閃石は1～2cmになることがある。この岩脈は、捕獲岩として「角閃石斑糲岩」を含み、角閃石は斑糲岩の溶け残りであるという説明を受けた。そこで、捕獲岩の残っているサンプルを探したが、見つからなかった。しかし「安山岩にしては重いな」と思わせる岩石だった。

地点5 蒲原礫層のアバット（由比町室野、室野橋）

かつて、橋の上から、由比川左岸に、「浜石岳層群にアバットする蒲原礫層」を見ることが出来たものである。現在は、コンクリートの護岸に覆われている。

地点6 鷲ノ田礫層（由比町大城および富士川町大代）

蒲原礫層に似ているが、蒲原礫層に比べれば、礫の入り方は乱雑であり、斜交層理も目立たない。基質の砂の締まりは緩く、道路脇のこの露頭は、長期的に見れば、「要注意」である。

地点7 ピクライト質玄武岩（富士川町北松野 まま下町）

露頭は大きくはないが、有無瀬川沿いで送電線の下なので、位置は分かりやすい。暗色の基質の中にかんらん石（径1～4mm）が散らばっている。



写真2 木の葉化石を含む黒色泥層（地点8）

地点8 木の葉化石（富士川町南松野 平清水）

平清水部落西の小さな沢の中の露頭だった。黒色泥層の中に、多数の木の葉、木片が見られた。きれいな化石の出る場所は、埋まっているということだった。